

会議記録

会議名	令和4年度 第2回 杉並区文化・芸術振興審議会
日時	令和4年10月19日(水) 午後6時00分～午後7時16分
場所	杉並区役所 東棟 教育委員会室
出席者	〔委員〕 曾田修司(会長)、後藤朋俊、佐藤信、染谷真之介、服部洋、米屋尚子、小林真理、朝枝晴美、谷原博子 〔区〕 地域活性化担当部長(徳嵩)、文化・交流課長(田森)、NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー代表(手塚) 〔事務局〕 文化・交流課
欠席者	日沼禎子、富澤武幸
配布資料	資料1 区制施行90周年記念事業における文化事業について 資料2 令和4年度文化芸術活動助成金について 参考資料 コミュかるVOL.60 東京高円寺阿波おどり演劇公演パンフレット
会議次第	〔議事〕 1 開会 2 議題 (1) 区制施行90周年記念事業における文化事業について (2) 協働事業「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」の取組について (3) 文化芸術活動助成金について ①令和4年度文化芸術活動助成金(第1期)実施概要 ②令和4年度文化芸術活動助成金 追加募集(第2期) 3 事務連絡 今後の開催スケジュール 4 閉会
主な発言	別紙のとおり

発言者	発言内容
	<p align="center">－ 開会 － （午後6時00分）</p>
	<p>1 開会</p>
<p>曾田会長</p>	<p>時間が早いようでございますが、ご予約の方はおそろいですので、令和4年度第2回杉並区文化・芸術振興審議会を開催いたします。</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日の出欠の予定ですが、事前に日沼委員、富澤委員からご欠席の連絡を頂いています。それから朝枝委員、小林委員は遅れていらっしゃるということでございますので、ご了解いただきたいと思います。</p> <p>まず、配布資料の確認です。お手元の次第に資料一覧がございますが、資料1、資料2、参考資料2種となっております。資料に不足等がございましたら、お申出いただければと思います。</p>
	<p>2 議題</p>
	<p>(1) 区制施行90周年記念事業における文化事業について</p>
<p>曾田会長</p>	<p>では、「2 議題」に入ります。議題の「(1) 区制施行90周年記念事業における文化事業について」、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>文化・交流課長</p>	<p>それでは、資料1に沿ってご説明します。</p> <p>杉並区は、令和4年10月1日に区制施行90周年を迎えまして、この間90周年の節目を区と区民が一体となって祝うとともに、次世代に区のこれまでの歩みを継承し、愛郷心を醸成することを目的として、区制施行90周年記念事業を実施しています。この記念事業における文化事業について、その概要と事業実績をご報告いたします。</p> <p>区では、区の歴史を語る上で欠かせない5つの出来事を「すぎなみ5ストーリー」として、「内田秀五郎の仕事」「原水爆禁止署名運動」「東京高円寺阿波おどり」「東京ごみ戦争」「3. 11自治体スクラム支援等の活動」の5つの出来事をピックアップし、様々な事業を通して区民に分かりやすく伝える取組を進めているところですが、このうち、「内田秀五郎の仕事」と「東京高円寺の阿波おどり」を文化事業として実施しております。</p> <p>まず、(1)の「内田秀五郎の仕事」については、令和2年度に第37回浅草伝統芸能大会新人賞を受賞されました浪曲師の玉川太福氏に、井荻村初代村長内田秀五郎の功績を伝える浪曲の制作を依頼しまして、その浪曲公演を行いました。楽しく笑いを交えながら、誰もが楽しめる作品となっております。公演の実績は記載のとおりです。</p> <p>ここで、浪曲の動画を一部御覧いただければと思います。また、参考資料としてお配りしている「コミュかる」60号は玉川氏を取材した内容となっておりますので、併せてご参照ください。</p> <p>それでは、動画をお願いします。</p>
	<p align="center">(動画)</p>
<p>文化・交流課長</p>	<p>ご視聴ありがとうございました。玉川太福さんの公演は、どのイベント事業でも非常に人気で、非常に良い作品が出来たと思っています。</p>

	<p>先ほど御覧いただいた浪曲ですが、今後区の公式YouTubeチャンネルにて配信する予定ですので、配信の準備が整いましたら委員の皆様にご改めてご連絡します。</p>
曾田会長	<p>全体は何分ぐらいの作品なのですか。</p>
文化・交流課長	<p>実際は20分から30分に調整しながらできるということで、長くて30分ぐらいの尺となっています。</p> <p>次に、「東京高円寺阿波おどり演劇」についてですが、令和3年度にプロポーザル方式により委託事業者を募集して、応募者数4社から佐藤商事株式会社を選定いたしました。区民オーディションにより選出した区民22名を含む合計25名の出演者による、東京高円寺阿波おどり創生期、これはおおむね昭和30年代なのですが、創生期を中心とした史実を盛り込んだ演劇を制作し、座・高円寺において10月13日から16日まで計5公演を行い、合計で970名の方に御覧いただきました。</p> <p>参考資料として、「高円寺が踊る」公演パンフレットをお配りしています。こちら、大変好評な演劇となっております、演劇についても動画として今後区の公式YouTubeチャンネルにて配信する予定ですので、配信の準備が整いましたら、こちら委員の皆様にご連絡いたします。</p> <p>最後に、「記念曲の制作・演奏」についてですが、「ふるさと・杉並」をテーマにした90周年記念曲について、日本フィルハーモニー交響楽団の協力の下、オーケストラや吹奏楽の作曲を中心に活躍されている福島弘和氏に作曲を依頼しまして、90周年記念曲、交響詩「鼓吹の桜」が完成しました。</p> <p>交響詩「鼓吹の桜」は、善福寺川の桜や高円寺の阿波おどり、阿佐ヶ谷ジャズストリートなど、杉並の風景が織り込まれた親しみやすい曲となっています。</p> <p>ここで、都立杉並高等学校吹奏楽部が演奏した、「鼓吹の桜」の動画を一部上映いたしますので、御覧いただければと思います。</p>
(動画)	
文化・交流課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま御覧いただいた杉並高等学校吹奏楽部の演奏は、既に区の公式YouTubeチャンネルに掲載しておりますので、後ほど改めて全編御覧いただければと思います。</p> <p>次に、資料1の「3 今後実施する事業計画」につきましては、内田秀五郎浪曲公演を記載のとおり各地域で実施いたします。</p> <p>また、東京高円寺阿波おどり演劇は12月に区の公式YouTubeチャンネルで配信する予定となっております。</p> <p>最後に、記念曲、交響詩「鼓吹の桜」は、ロビーコンサートや11月上旬に予定しているすぎなみフェスタ2022などで、日本フィルハーモニー交響楽団や中央大学附属杉並高等学校吹奏楽部の学生の皆さんに演奏いただき、広く区民の皆様にご覧いただけるよう、実施する予定となっております。</p>

<p>曾田会長</p>	<p>ご報告ありがとうございました。</p> <p>これまでの文化事業の実績、ここまでやってきたことと今後の事業計画ということで、それぞれ浪曲公演、阿波おどり演劇、記念曲の演奏の公演あるいは公開の予定を資料でお示しいただいております。</p> <p>ここまで、この90周年記念事業についてどうであったかというご感想を頂ければと思いますが、皆様はそれぞれ御覧になられましたか。</p> <p>服部委員、全体のご感想をお願いします。</p>
<p>服部委員</p>	<p>この90周年記念式典で一番感激したのは、コンサートの曲です。これを初めて演奏されて、そこではいわゆるアンサンブル版だったのですが、家に帰ってきてユーチューブを見たら、ちょうどこれがあったので聞いたら、うんと分かりやすく、阿佐ヶ谷のジャズストリートや高円寺の阿波おどりの状況が表現されていて、もっと分かりやすかった。大変良かったと思います。</p> <p>杉並高校の吹奏楽部の方たちはあれをいきなり練習して、あれだけの技量でやられたのですね。びっくりしました。それから中央大学の杉並高校の学生たちも吹奏楽版を演奏されるようで、演奏しやすいのかどうなのか、大変良いものができて、これは杉並の宝になると思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>曾田会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>記念曲についてのご感想を頂きましたが、内田秀五郎の浪曲についてはいかがでしょうか。お聴きになられた方はいらっしゃいますか？</p>
<p>後藤副会長</p>	<p>ああいう形で浪曲を聞いたのは初めてなので圧倒されて、こういうのもいいなと思ったのと、あまり知らない内田秀五郎さんの生涯を身近なものに感じることができて、演じられた玉川さんがお上手なのだろうと思うのと、間で三味線の方の絶妙な、ああいうのを見るとジャズとは違いますが、ああいう掛け合いがすごく絶妙なので、そういう点では音楽をやっているものとしては勉強になりました。</p> <p>また、「ごみ戦争」はすごく印象に残ったというか、中学生たちがいろいろ調べながら、自分たちで調べて、それに対してどうしていかなければいけないかというのが出ていたので、ああいう生きた授業といえますか、すごく良かったと思っています。</p>
<p>曾田会長</p>	<p>谷原さん、いかがでしょう。</p>
<p>谷原委員</p>	<p>私はどちらかというと仕事を通して90年に「ごみ戦争」も含めて関わらせていただいたのですが、小学校のコーディネーターをしている立場で言えば、浪曲というと子どもたちに馴染みがありませんが、ここに書いている内田秀五郎さんのいので立ちと、どんなふうに杉並でまちづくりをしたかというのを、ユーチューブで紙芝居のアニメーションになっているパターンも公開されていて、小学校1～2年生にも分かりやすいような紙芝居になっているのと、大人向けには浪曲の2本立てにしているのがすごくいいなと感じました。</p> <p>後藤委員がおっしゃった「ごみ戦争」も、まさに中学生がごみというもの</p>

	<p>を自分事化している姿勢がすごく伝わってきました。多分90周年という節目といたしますか、実は90とはすごく大事な位置づけかなと、これらを通して感じました。100年に向かってどんなふうにバトンを渡していかないといけないのかというメッセージが伝わる記念事業だったと感じました。</p> <p>以上です。</p>
曾田会長	<p>ほかに、地元の方で御覧になられた方はいらっしゃらないですね。</p> <p>では、演劇はいかがですか。私も拝見しましたが、佐藤委員は御覧になられましたか。感想をお聞かせいただければ。</p>
佐藤委員	<p>史実に割と忠実に、それをおもしろくまとめるということで、丁寧な仕上がりの演劇だったことと、区民の募集の方たちと俳優さんたちの融合がすごくうまくいっていて、そんなにこっちが区民だ、こっちじゃないという感じではなく、すごく大人数の芝居で仕上がりを心配しましたが、お客様も喜んでいただけたようで、自治体の何かをモデルとした芝居としてはすごく丁寧に、特に若手の作家と演出家だったので、その辺が作品としても、いろいろな映像の使い方とか、歯切れよく使っていて、良かったと思いました。</p>
曾田会長	<p>出演25人のうち、プロの俳優は3人だけですね。非常に良くできていたと思います。いろいろなことに目を配らなければいけない、注文が多い芝居なのに、非常にうまく書かれていました。当然でしょうが、阿波おどりのシーンも最後にあって、それも非常に迫力があって良かったのではないかと思います。</p> <p>ほかに「高円寺が踊る」を御覧いただいた方はいらっしゃいますか。いいでしょうか。</p> <p>そういたしますと90周年事業については、文化事業2本と記念曲についてはここで感想を述べていただいて、それが評価のある部分を占めるのでしようけれども、区として、90周年事業をどのように評価していくことになるのでしょうか。</p>
地域活性化担当部長	<p>90周年事業は、令和4年度の1年間を通して実施していきますので、最終的な評価はその終了後に行うことになると思います。</p> <p>今回単年度でやったこととはいえ、今後の100周年に上手くつなげていく必要があると思っていますので、その辺りを今後、こういった場や区民の皆さん、団体の皆さんから頂くご意見なども踏まえながら、しっかりと総括していくよう、本日のご意見を総務部の記念事業担当に伝達してまいります。</p>
曾田会長	<p>徳高部長からお話を頂きましたが、今回の記念事業全体の評価は少し時間が経ってからということだと思いますが、文化事業に関して、今のお話を踏まえて何かご意見などはございますか。</p>
服部委員	<p>90周年記念の最後に、阿波おどりの方が70人弱舞台上がって一斉に踊っていただいて、大喝采だったですね。あれはびっくりしました。最初から予見していなかったの、ああいうふうな杉並の阿波おどりを、ああいうところで皆さんの協力でやって元気な姿を見るというのは、とても良かった</p>

	<p>と思います。</p> <p>座・高円寺でも何回か拝見しましたが、公会堂で70人が一斉に踊る、あれは杉並区民もびっくりしたのではないですか。あれが一番感動したと思います。</p>
曾田会長	<p>ライブの良さが活かされていますね。</p> <p>他に、文化事業全体で何かお気づきになったことは。</p>
小林委員	<p>ずっと欠席しておりまして申し訳ありません。久しぶりの参加です。</p> <p>質問ですが、70周年や80周年のときも、こういう文化事業をされたのでしょうか。最近こういう何十周年のときに、意外と他の自治体は創作のための支援みたいなことをやっていません。</p> <p>この間、ある自治体で、オリンピックの関係だったのですかね、創作のファンファーレを依頼されたが、コロナのこともあって公演ができなくなって、演奏されなかったという話を聞きました。</p> <p>こういうことがどんどん縮小されて、今回はたまたまコロナのこともあったのですが、創作を依頼するのはすごく大事ななと思っています。できれば100周年は、もちろん文化事業を盛り上げていきたいというのと、途中の事業をやっていく段階でも、創作、創造支援をぜひやっていただきたいと改めて思いました。</p> <p>質問は、今まで文化事業をやってきたのでしょうか。私の住んでいるところは、何十周年などの文化事業を全然しません。シンポジウムや市の歌みたいなのを歌ったりしますが、それぐらいなので、随分豪華にやっていらしてすごいなと思いました。</p>
地域活性化担当部長	<p>私が入庁してからは、60周年、70周年、80周年の記念事業がありましたが、シンポジウムとかパレードなどはあったものの、テーマを定めて創作的な取組を行った記憶はなく、90周年に当たり、初めての試みと思います。今回の5ストーリーズ事業や記念曲の制作は、いずれもチャレンジな取組であり、今後の総括を踏まえて、いかに次の100周年につなげていくかがポイントと捉えております。</p>
小林委員	<p>分かりました。ありがとうございます。頑張ってください。</p>
曾田会長	<p>小林委員のご指摘のように、「5ストーリーズ」というテーマを設けただけではなく、新作を作つてというところが素晴らしい。今作ったものが後に残ることを目指すわけですが、今作ること自体が、過去の90周年を踏まえてのクリエイションなので、そういう意味で文化的なサイクルが回ることにチャレンジされて、非常に素晴らしい取組だったのではないかと思います。</p> <p>この文化事業に関しましてはよろしいですか。</p>
曾田会長	<p>(2) 協働事業「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」の取組について</p> <p>では、次の項目に参りたいと思います。</p> <p>議題の「(2) 協働事業『すぎなみ戦略的アートプロジェクト』の取組について」を、事務局からご説明いただいてよろしいですか。</p>
文化・交流課長	<p>「杉並戦略的アートプロジェクト」ですが、こちらは区の協働提案制度に</p>

	<p>て平成26年度に採択され、NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャーと区が協働で実施してきた事業です。</p> <p>令和4年度は協働推進計画に沿って、杉並区NPO・ボランティア活動及び協働の推進に関する条例に基づき、同法人と協定書を継続して締結し、相互に連携及び協力して現在事業に取り組んでいます。</p> <p>今日は、同法人の代表である手塚様にお越しいただいています。本事業の説明をしていただきますので、手塚様、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>チューニング・フォー・ザ・フューチャー</p>	<p>初めまして。NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャーの手塚と申します。よろしくお願いいたします。着席でご案内させていただきます。</p> <p>協働事業は2015年から杉並区の採択によって、杉並区文化・交流課さんと私どものNPO法人で協働していく事業ですが、令和4年度は主にここに出ている3つの事業に取り組んでいます。</p> <p>1つ目は「スギナミ・ウェブ・ミュージアムの運営と発信」です。2番目は「東京2020大会をきっかけにした和文化の発信」。3つ目は「地域の中での作品展示場所の発掘と創出」を主に担当して活動しています。</p> <p>活動の中では、人が関わることですので、どんな体制でやっているかをご案内しますと、基本的に事務局は、文化・交流課とうちのNPO法人で事務局員を出しております。それから、登録制でサポーターが60名、アーティストが50名、まちなかギャラリーというものがございます。</p> <p>サポーターはイベントの設営や受付などの裏方、それからワークショップを開催するときのアシスタントや講師などを担当していただいています。</p> <p>サポーターとアーティストは図でも大きく重なっていますが、別々な人材が110名いらっしゃるのではなく、アーティストの中でもかなり協力的な方が多いということで、ご自身の作品のこのみを第一に考えるのではなく、区のアート活動についてサポーターとして活動してくださるアーティストが非常に多く、実質的にはサポーターとアーティスト、合わせて80名前後に登録いただいている状態です。</p> <p>右端に「まちなかギャラリー」と書いていますが、こちらは商店や社屋の一角、倉庫とか、もともとギャラリーではない場所をアート作品の展示の場としてご提供いただく企業や商店の協力で、こちらで紹介して活用いただくという仕組みにしています。</p> <p>そのようにいろいろな方に関わっていただいています。例えば1年間どんなことをしているかを簡単にご紹介すると、事務局は通年で登録された方々のサポートや会計などを担当していますが、3本柱の事業で言いますと、ウェブ・ミュージアムは年間大体3件程度の新しい展示を公開する予定にしていますので、常に調査・取材・制作を繰り返しています。</p> <p>短いものは数か月で準備できますが、長いものでは1年ぐらいかけて準備して展示するというので、常に何かしらしている状態です。</p> <p>真ん中にある「東京2020をきっかけにした和文化」は、お子さんの参加希望がとても多いです。そんなこともあって参加しやすいように、夏休み</p>

の思い出作りというのがありますが、夏休みのメインイベントとして数日間の展示とワークショップを同時に開催しています。

それから10月、今年はたまたま今週の金曜日ですが、阿佐ヶ谷ジャズトリートとコラボして、少し小さい規模の展示とワークショップを阿佐谷区民センターで予定しています。

最後にあります「地域の中での作品展示場所」というのは、通年でサポーターがまちなかで見つけた展示に適した場所にお声がけしたり、要望があれば現場を見に行き行って登録したりという活動を随時行っています。そんなサポーターとの連携を深めるために、ミーティングを年間8回程度実施しています。

事業の3つを、順番にご説明したいと思います。

1番目の「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」ですが、これはウェブ・ミュージアムで仮想空間ですが、実際に立体的にミュージアムの感じを再現していますので、たまに「どこにあるのですか」との電話が来るなど勘違いされる方もいらっしゃるぐらい、忠実に美術館っぽく作ったものです。

このウェブ・ミュージアムは、東京2020大会を契機として、2020年の感染が始まったところからアートイベントやアート展示を中止せざるを得ない状態が続いていたことも相まってスタートいたしました。

東京2020大会の1つのレガシーとして継続利用するために、こちらのプロジェクトで運営を引き継ぎました。先ほど登録していただいたサポーターからも、関心をお持ちの方には部会化して集まっていたいただいて、どんな企画がいいかといった意見交換をしながら進めています。

ウェブ・ミュージアムは博物館法則ったものではありませんが、クオリティーの担保と内容の正確性を期するために、区民展の応募があれば審査して、専門家と意見交換して進行することになっています。また、高名な作家の展示作品を扱うときには、その筋の専門の方にご監修いただいてから公開するようにしています。

現在取り組んでいるものが幾つかありますので、簡単にご紹介します。

1つ目は「区内美術品のデジタル化・発信」です。杉並区は文化的なものがたくさんあると言いつつも、どこに行けばそれを見られるのか分かりづらいところもありましたので、そちらを集約して、可視化したコンテンツ、役立ち度の高いものを作ろうと思っています。

デジタルなので作りっぱなしではなく、情報もどんどん追加でき、改定もできますので、成長していくタイプの発展型の展示になると思います。1年～2年をかけて、完成形に近づくと想定しています。

ただ、デジタルだけでは手が出ない方もいらっしゃるのも事実なので、こういった情報がある程度集まった段階で定期的にPDF化して、紙でも御覧になれるように配慮しようと考えています。

2つ目は、これは今年だけではありませんが、魅力的なコンテンツを発掘して、作り上げて、発信しなくてはいけないということです。せっかくのウエ

ブ・ミュージアムなので、わざわざお越しにならなくてもご観覧いただけるメリットがありますので、区の魅力ではあっても、区外・国外からも観覧の可能性が期待できる展示をしたいと考えています。

画面の左側「阿佐ヶ谷住宅の記憶展」は、おかげさまで地元ファンのみならず、団地ファンとか、今は団地マニア、公団マニアという方もいらっしゃるやいまして、建築関係に関心をお持ちの方にも御覧いただいております、好評な展示でございます。

中には、デジタルにしかできない3D動画で、阿佐ヶ谷住宅の敷地の中を実際に通り抜けるような動画を見られることと、テラスハウスを回してどんな作りなのか観覧者が自分で操作できるメリットもあり、お子様にも楽しんでもらえる工夫をしています。

右側には「MUNAKATA SHIKO 2021」という、終わってしまった展示ではありますが、かなりアクセスもありましたので、簡単にご紹介します。これは海外からのアクセスが想像以上に多かったため、急遽英訳をつけた次第です。作品を見れば分かるということもありますが、より多くの人たちにリーチして納得していただくためには、キャプションも英語にしないと駄目ということになり、監修者のご厚意で翻訳を区民のボランティアにさせていただいて、展示しました。

また、せっかくのデジタルコンテンツなので、監修者の解説を聞きながらご自宅のパソコンで、美術館をツアーするように作品を見られるオンラインツアーを実施しましたが、大変好評でした。デジタルの強みを生かすということでございます。

ウェブ・ミュージアムの最後は、全体的に情報発信と区民展示もやっていますが、応募者は少なく、そこを促進しなければいけないと思っています。

スギナミ・ウェブ・ミュージアムは、「ウェブ・ミュージアム」という検索結果では上位に表示されていますが、存在自体の認知度はまだとても低く、展示コンテンツを作るのと同じくらい、広報にも力を入れないといけない状況でもあります。そのため、PRを重点的にしなければいけません。そこで協働事業の魅力というか威力が発揮されますが、制作は私たちプロボノ団体なのでプログラマーもCGデザイナーも全部そろっていますが、広報・メディアの面で強いものは持っていませんので、杉並区の持つ公的メディアを使うことで、かなり幅広い方々にリーチしていると感じています。

先の棟方志功展でも、区の発行したプレスリリースが大変有効で、かなり大きな通信社に取材に来ていただき、目視で確認しただけでも50～60の全国メディアで紹介いただいた経緯がありましたので、そういうところで協働の強みも生かして、広報を継続的にしていく必要があると思います。

周知につきましては、皆様にもお力添えを頂ければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ウェブ・ミュージアムはここまででございます。

2番目の事業「東京2020大会をきっかけにした和文化の発信」は、主

に展示とワークショップをセットで行うこととして、見るだけ、作るだけではなく、見て、作って、楽しむということを、意図はしていませんでしたが、結果的に子どもたちが対象となっています。

「地域の和」とか、和風の「和」と輪っかの「輪」があると思いますが、もともとは阿佐谷周辺のアートストリート展でしたが、この地域は現役の仏師や、若手の和裁士、手妻師もいました。かなりいろいろな「和」の達者な、しかも若手の方が多いので人材を生かしたいということもありました。そこで、単なる土着の「和」ではなくいろいろな「和」を展示、ワークショップで活用したいというところで始まっています。

展示とワークショップについてそれぞれお話ししますと、展示は七夕の時期にやっていた道端のアートだったので、「BATA ART EXHIBITION」という名前で屋外展示をしておりました。主に先ほど登録されたアーティスト、サポーターのほかに阿佐ヶ谷美術専門学校というものがあり、学生が手伝ってくださって、個人宅の駐車場や軒先などで展示させていただいていました。

土着の「和」を持ってきても関心のない方には振り向いていただけないので、現代のテイストを生かしたり、「洋」のテイストを融合させたりして、今時の若い方たちにも理解いただけるような、関心を持っていただけるような作品と、展示方法の工夫を重ねています。

登録されているサポーターの中にも和紙、竹、墨、顔彩などを初めて触る方も多く、お客様だけではなく私たちの内部スタッフでもかなり再発見があったと思っています。

あとは展示方法で、海外では「ハンギング」、ぶら下げて空中に浮かしたアートがすごくはやっているので、私たちの展示でもそういった手法を取り入れて、工夫しておりました。

展示と同様2番目のワークショップも一緒の期間に行いますが、4日ぐらいの展示期間と併せてワークショップを行い、その中で7～10種類ぐらい入れ替わり立ち替わり先生がやって来て、ワークショップを実施します。

ここでも「和」をテーマにしますが、ふだん家や学校ではできない、高く買えない材料に挑戦してもらいたいと企画しています。特にガラス絵具などはものすごい反応で、ガラスで絵を描くのはすごく新鮮で、風鈴作りは、とても人気でした。

毎回募集から即日、遅くても3日で全部定員に達してしまいますので、非常に需要があるということを実感しています。

中には、アナウンスする前からウェブサイトを毎日巡回して見に来て、公開された途端に全部申し込むという方もいらっしゃいましたので、夏休みの子どもの行き先としても、非常に重要だと感じています。そういったことで、「和」の文化を少し身近に感じてもらう活動をしています。

最後に事業の3つ目「作品展示場所」は、もともと杉並区役所2階にある区民ギャラリーがとても人気で、応募者が多くてということだと思いますが、

なかなか展示することができず、展示の場を増やしたいということからスタートした事業です。当初は、「まちなかギャラリー」という呼称で情報を集めて公開していました。

このように必要な情報は、私たちよりも日頃まちでよく見ていらっしゃるサポーターやアーティストのほうが着眼力もすごいし、行動力もありますので、いろいろなところで気づいたこと、あんなところにこんなものができたみたいな情報を生かして、ミーティングをして情報を共有しています。

情報共有はとても重要で、実際に借りたというご意見もとても参考になるので、ミーティングは重要と思っています。

この2つは課題も抱えていて、良いことばかりではなかったもので、今は過渡期にあります。プロジェクト当初は、区民の表現や発表の場を取りあえず増やそうと躍起になっていましたが、その成果もあって、1年間で90か所ぐらいギャラリーを登録いただきましたが、結局情報の交流を図ったとしても、有料のギャラリーもあるし無料のところもあるし、常駐で人のいるところもあれば、いないところもあるなど、いろいろな条件がそれぞれ違って、活用という部分では満足できていない状態でした。

無料にこだわって展示場所を探す方が多いとか、コミュニケーションに問題が起きているとか、プロフェッショナルななりわいギャラリーの方たちはどうしても会議に来られないので、情報共有が難しくなりました。

そんなことで3年ほど経過して、もう一度登録を継続しますかという再確認のときに、ちゃんと情報共有できないと継続は難しいという前置きをしたところ、積極的で協力的な15か所だけが残ったという実情があります。ただ、結果的には活用しにくい情報がたくさんあるよりも、確実に使いやすい情報がわずかでもきちんとかあるほうが安心というところでは、私たちもそうかなと実感しています。

またサポーターやアーティスト、それから「コミュかる」や広報でも案内していますので、登録していない方も参加したミーティングを行っています。これは大体3か月に1回のペースで、いつも10～20名の間にお越しいただきますが、そこでいろいろな、活性を高めるために伝達で終わらないよう、一緒に考える、決定する、作業する、学ぶということを会議で実施して、役立ちを考えた形で行っています。

最近、資料の13頁に「過去のアート・ファン・ミーティングでの研修」とありますが、区民の方々が気になっていることは結構多く、著作権講座とかアーティストのためのNFT基本講座のような、現在デジタル化とアートは切っても切れなくなってきた部分もありますので、NFT等を実施するかどうかは別として、知識として必要なことはこういった機会に学んでいただくという取組を、研修として実施しています。

こんな活動を、年間を通して3本柱についてそれぞれ担当を決めてアーティスト、サポーターのご協力の下、活動しているのが協働事業のアートプロジェクトでございます。

	<p>駆け足でしたが、私からは以上となります。今後も、細々というか粛々と活動してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
曾田会長	<p>どうもありがとうございました。活動の内容が非常によく分かるようにご説明いただいて、ありがとうございました。</p> <p>こういうふうに項目別に全体像をきちんとご説明いただくのはなかなかない機会なので、委員の皆様からも何か、これを機会に聞いておきたいこと、確認しておきたいこと、要望その他があればいかがでしょうか。</p> <p>私から、サポーター、アーティストの参加が非常に多いということを知りてなるほどと思いましたが、大体数年間にわたって安定しているというか、入れ替わりはありませんか。それとも、どんどん入れ替わっている感じですか。</p>
チューニング・フォー・ザ・フューチャー	<p>登録された方で長い方はずっと、初年からお手伝いいただいています。ただ、現役の方が多いので、どうしても転勤や転出で引越しされてしまう方は続きませんが、すぎなみ地域大学で2回ほど補充のための講座を実施して、そこを修了した方には登録いただくということもしていました。</p>
曾田会長	<p>アーティストは、地元に住んでいらっしゃる方ということですか。</p>
チューニング・フォー・ザ・フューチャー	<p>ほとんど杉並在住です。何名かは杉並拠点ということで、区外の方もいらっしゃいます。</p>
曾田会長	<p>最初の体制図で丸が重なって描かれていましたが、事務局は大体何人でやっていらっしゃいますか。</p>
チューニング・フォー・ザ・フューチャー	<p>文化・交流課様は主に2名の方に窓口をお願いしていただき、大変だと思われていますが、しっかりサポートいただいています。</p> <p>私どもはウェブ・ミュージアムの企画を見る人間が1人いて、それ以外に制作する人間が何人かいます。あとはイベントとワークショップで2人担当がついていて、事務局自体は実質5名で担当していますが、毎日つきっきりでは関われないので、もう少し少ない感じです。</p>
曾田会長	<p>ほかの委員の方々、いかがでしょうか。</p>
小林委員	<p>まちなかギャラリーなどは、アーティストたちは使いたいという感じがありますか。実際に使われているのでしょうか。残った15件も含めてということですが。</p>
チューニング・フォー・ザ・フューチャー	<p>使われるギャラリーと使われないギャラリーがあります。どなたかが使ったという口コミで、同じギャラリーばかりが使われる傾向があります。</p>
小林委員	<p>でも、使われているという。</p>
チューニング・フォー・ザ・フューチャー	<p>使われてはいます。</p>
小林委員	<p>それは、発表したい方たちが多いということですね。</p>

<p>チューニング・ フォー・ザ・ フューチャー</p>	<p>多いですね。</p>
<p>小林委員</p>	<p>うらやましいと思ったのですが、実際に、今生きて活躍しているアーティストを実質的に支援していると思います。</p> <p>杉並などこの辺は若手のアーティスト、いろいろなジャンルがありますが、いらっしゃるのがすごくよく分かって、むしろそういう人たちへの支援が追いつかない状況がどこの自治体でもあって、基本的には文化施設を造って、勝手に使ってくださいで終わっているところがある中で、デジタルという仕組みを使って今風でいいと思います。</p> <p>反対にこれを、もう少しリアルなところでもやってほしいという感じはあって、それこそ今は博物館法の、登録博物館ではないとおっしゃっていますが、実質やっていることはほぼ同じことのように思いました。</p> <p>博物館法の登録制度は変わってきていて、デジタルのものであっても、いずれちゃんとしたものを作るのなら、登録博物館にする方向性というのは出ています。その辺は杉並区とすると、それは考えていないということですか。</p> <p>拠点としてリアルなものがあると、さらに活動が広がる感じを受けましたが、場所がないこともあります、その辺りはいかがなのか、行政にお聞きしたいと思いました。</p>
<p>文化・交流課長</p>	<p>リアルな博物館や美術館は用地の関係などで設置が難しいのが現状で、そのことを解消するために「まちなかギャラリー」で、店やいろいろなところに協力してもらっていますが、「すぎなみアート応援事業」という、場と活動の支援をコロナ禍でやってきましたが、その中で場の支援をしたときに、杉並区内にはギャラリーがかなり多い印象があって、大きなところから少し小さいところまでいろいろなギャラリーが点在していて、リアルな大きな美術館、博物館はありませんが、点在したギャラリーをめぐる楽しさとか、良さもあると今は思っています。</p>
<p>小林委員</p>	<p>支援したい人たちが活躍すればするほど、その作品をコレクションしたいのではないですが、美術館的ということが出てきてもおかしくない気がしました。そのときには、リアルな場が欲しくなってしまうところとか、それがたまっていくことがいずれ杉並の文化の表象的なものになっていくと思うと、これだけの事業をやっているだけに、次のアーカイブ的な部分も考えていかれるといいのではないかと気がしました。</p> <p>ここでアーカイブはもうされていることは分かっていますが、デジタルの良さを十分生かしていると思うので、反対にそれをさらにもう少し生かしてほしいと思いました。</p> <p>私は割と近くに住んでいるのですが、そういうことを全くやってくれない自治体に住んでいますので、すごくうらやましく思っています。</p>
<p>曾田会長</p>	<p>ほかの方、いかがですか。手塚代表と意見交換、情報交換ができる機会を組んでいただいていますので。</p>

	<p>私の方から、今日は令和4年度の3本柱ということでご報告いただきましたが、この3本柱ですと行くということでもなく、いろいろ入れ替わりが今までもあって、これからもあると思いますが、今後特に、傾向としてこの分野に力を入れて行こうということがもしあれば、教えていただければと思います。</p>
チューニング・フォー・ザ・フューチャー	<p>これまでスギナミ・ウェブ・ミュージアムはありませんでしたので、今年からウェブ・ミュージアムの運用をしっかりとしようというのが3本柱に追加された状況です。今後も、来年のことは年が明けた頃から相談して、何を中心にやっということを区と協働で検討しますので、そこで考えたいと思います。</p> <p>ウェブ・ミュージアムに関しては評判もよく、どうにか上を目指すことも考えないといけないと思っていますので、相談して進めたいと思います。</p>
曾田会長	<p>ウェブ・ミュージアムという言葉自体も他であまり聞かないですね。これはすごく強みになるのではないかと思います。</p>
谷原委員	<p>私もこのスギナミ・ウェブ・ミュージアムというものを、これから杉並区が目玉にしていくべきものというか、今おっしゃったみたいにウェブ・ミュージアム自体の取組も非常に注目されるものがあります。</p> <p>最初、杉並区には美術館がないというところからの発想もあったと思います。幸か不幸か、コロナで実際に足を運べない事態を逆手に取った発展の仕方をして、世の中の的にもインスタブーム、映像というもののユーザーが増えたという後押しがあって、このスギナミ・ウェブ・ミュージアムを、これからさらに発展して、全国や世界に向けての目玉にするためには手塚さん、あと何が必要だとお考えですか。何があったら、こんなふうに発展していくのか。</p>
チューニング・フォー・ザ・フューチャー	<p>それは作家さんたちのご理解がすごく大きく、私たちが扱いたくても高名な作家ほどデジタル化には懸念がある。ただ棟方志功まで行ってしまうと図録も出ているグッズも出ている。むしろデジタルできれいにしてもらえるのは嬉しいとおっしゃいますが、デジタルに不安をお持ちの場合、ウォーターマークをつけないと駄目だとかいろいろとありますが、デジタルに関するご理解をどうやって進めるかということと、安全性はうちでも担保できないのです。どんなに対応してもいちごっこで、できる方はさくっとコピーができてしまいます。</p> <p>そこでデジタルのご理解を高めていただくことと、ある種諦めていただくことが必要になる。そこに関しては、私たちは強引に説得しないようにしています。ご本人が納得して、積極的に載せたいという場合はお受けします。あまり説き伏せても後々問題になることもあるので、そこは難しく、時間と技術は欲しいです。</p>
文化・交流課長	<p>これはウェブ・ミュージアムということで単純にデジタルということだけではなく、手塚さんと私どもで工夫して、例えば棟方志功展では、監修していただいた石井頼子さんがZoomを使って解説、オンラインでつなぐ形で</p>

	<p>やったり、「阿佐ヶ谷住宅の記憶展」ではデジタル展示と同時に、区民ギャラリーで実際の廃材を展示するリアルな場とウェブの場をつなぐこともやっていますので、それは今までにはない、新しい取組と思っています。</p>
曾田会長	<p>他によろしいですか。</p> <p>そういたしますと、今日の会議は盛りだくさんで、ほかにもいろいろあるようですので、意見交換はここまでとしたいと思います。</p> <p>手塚さん、どうもありがとうございました。</p>
	<p>(3) 文化芸術活動助成金について</p>
曾田会長	<p>では、次に行ってよろしいですか。</p> <p>議題の(3)「文化芸術活動助成金について」も、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
文化・交流課長	<p>資料2を御覧ください。</p> <p>令和4年度文化芸術活動助成金の第1期は、助成額については1事業当たり、個人・団体にかかわらず上限40万円、補助率3分の2でした。対象事業者は直近3年以内に区内で2回以上の活動実績を有する区民、または区内団体25件規模想定で、本年4月1日から5月31日まで募集を行いました。</p> <p>申請期間は、これまで1か月間であったところを2か月間と期間を延ばして、少しでも多くの事業者の方々にお申込みいただけるようにいたしました。その結果、87件の応募があり、審議会の部会審査を経て、審議会委員の皆様にもご確認・ご了承を得た後、25件を承認いたしました。</p> <p>承認事業の内訳は音楽8件、演劇2件、伝統芸能5件、美術5件、舞踊3件、パントマイム1件、美術と音楽1件です。</p> <p>第2期は第1期の応募状況及び審議会等の意見を踏まえて、9月29日の区議会本会議で、国の地方創生臨時交付金を活用した補正予算が議決されたことを受け1,000万円の財源を確保し、第1期と同規模で10月3日から11月4日までの期間で追加募集を実施しております。書類審査を令和4年11月中旬、審査部会を令和4年12月中旬に実施しまして、令和5年1月上旬に結果通知を行う予定です。</p> <p>以上が、令和4年度の助成金の内容です。</p> <p>なお、今般の第3回区議会定例会では来年度以降の助成金についても拡充して対応を図るべきとの意見が出されており、区としては今后来年度当初予算を編成するなどの中で、原油価格、物価高騰などの社会状況を見定めつつ、他の事業者支援とのバランス等を総合的に考慮しながら考えていきたいと答えています。</p>
曾田会長	<p>確認ですが、区議会でも臨時交付金の活用について補正予算が決まったと。来年度予算については今後検討するということですね。来年度1,000万の枠を増やせるかどうかは、今後の問題ということですね。</p>
文化・交流課長	<p>予算の審議がありますので、その中で議論されます。</p>
地域活性化担当部長	<p>区としては、今回の追加募集の実績や今後の社会経済状況等を見定めながら、令和5年度以降の助成のあり方を考えていきたいと思っています。こう</p>

	した考えについては第3回区議会定例会中の決算特別委員会における質問に対して答弁しております。
曾田会長	資料2に書いている(1)は第1期ということで、財源1,000万で実施されたものを、(2)は補正予算で、追加募集で今年度事業についてもう一回受け付けるということですね。したがって、第1期のときに採択されなかった団体・個人も、もう一回申請できるという考え方でよろしいですね。
文化・交流課長	そうです。
曾田会長	ということでございます。これについて、何かご質問、あるいはご意見等ありますか。
米屋委員	確認ですが、ということは、4月1日から来年3月31日までの事業が対象になるということですね。
文化・交流課長	おっしゃるとおりです。この第2期の追加の募集も、同じように対象になります。
曾田会長	既に実施された事業でも、申請できるということですね。
文化・交流課長	はい。
曾田会長	第1期の報告の資料を見ていると、承認事業の内訳で、割にばらけていますね。音楽が一番多いですが、多彩な内容になっているのではないかと思います。良いことではないかと思います。 あと、40万円を25件規模ということで、第2期の追加募集を現在やっていたらということですが、これは10月、もう2週間ぐらい経っていますが、反応はどうか。
文化・交流課長	反応は、毎回応募期間の最後のほうに集中的に増える傾向がありますので、今後同じ傾向になると思っています。
曾田委員	これについてはいかがですか。 増やしたいというご意向は以前から聞いていましたので、その方向に沿っての流れであると理解しています。
朝枝委員	多分1期で駄目だったものについては、それなりの理由があると思います。今、同じものでも応募して良いという話がありましたが、例えば文化・交流課に伺って1期目は駄目だった、どういう点が駄目だったか、どういうところを見直せばいいのかという助言があるのか、全く団体にお任せしてしまって、駄目なものがそのまま来るのか。どうなのでしょう。質問に来た場合、例えば団体がそもそもずれているケースもあろうかと思います。そうしたときに、そもそもずれているものを、またどうぞというのではなく、何かアドバイスがあるのかどうかということになります。
文化・交流課長	審査としては芸術の良し悪しではなく、総合的な観点で判断して審査にかけますが、よくあるのが書類の書き方が分からないとか、少し不備があるとかということについては事務局で丁寧に対応していますので、そこが改善されて、以前に申請して改めて申請したら通ったということがありました。
	3 事務連絡

今後の開催スケジュール	
曾田会長	<p>よろしいですか。</p> <p>では、助成金について今後のスケジュールをお願いいたします。</p>
事務局	<p>現在募集中の第2期助成金は、11月4日に募集を締め切ります。12月中旬に審査部会を開催させていただきたいと思っています。</p>
曾田会長	<p>部会という話がありましたが、審査部会は前回、第1期のときに5人で構成しておりまして、私と佐藤委員、後藤委員、米屋委員、富澤委員でしたが、この5人で第2期の審査もお願いするということによろしいですか。</p> <p>件数も多く大変ですが、委員の方々よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>部会員の方、よろしくお願いいたします。部会における審査内容は全ての委員の皆様にきちんとご報告いたしますので、ご確認のほどお願いいたします。</p> <p>次に、本年度最後の審議会は来年3月を予定しております。日程調整は、追ってご連絡しますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
4 閉会	
曾田会長	<p>そうしますと、今日の予定されていた議題は全て終了したということによろしいですか。特にご発言がなければこれで終了しますが、よろしいですか。</p> <p>では、遅くまで参加いただきましてありがとうございました。以上で閉会といたします。</p>
— 閉会 — (午後7時16分)	

令和4年度 第2回 杉並区文化・芸術振興審議会 次第

令和4年10月19日(水)
午後6時から
区役所東棟教育委員会室

1 開会

2 議題

- (1) 区制施行90周年記念事業における文化事業について
- (2) 協働事業「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」の取組について
- (3) 文化芸術活動助成金について
 - ① 令和4年度文化芸術活動助成金(第1期)実施概要
 - ② 令和4年度文化芸術活動助成金 追加募集(第2期)

3 事務連絡

今後の開催スケジュール

4 閉会

【配布資料】

- 資料 1 : 区制施行90周年記念事業における文化事業について
資料 2 : 令和4年度文化芸術活動助成金について
参考資料 : コミュかる VOL. 60
東京高円寺阿波おどり演劇公演パンフレット

区制施行 90 周年記念事業における文化事業について

杉並区は、令和 4 年 10 月 1 日に「区制施行 90 周年」を迎え、この間、90 周年の節目を区と区民が一体となって祝うとともに、次世代に区のこれまでの歩みを継承し、愛郷心を醸成することを目的として、「区制施行 90 周年記念事業」を行っています。この記念事業における、文化事業について、その概要と事業実績をご報告します。

1 文化事業の概要

【すぎなみ 5 ストーリーズ事業】

区の歴史を語る上で欠かせない 5 つの出来事（すぎなみ 5 ストーリーズ）を、様々なイベントを通して区民にわかりやすく伝える取組を進めており、このうち「内田秀五郎のしごと」と、「東京高円寺阿波おどり」を文化事業として実施しています。

5 つの出来事（すぎなみ 5 ストーリーズ）		事業概要
1	内田秀五郎（うちだ・ひでごろう）のしごと	浪曲公演、展示等
2	原水爆禁止署名運動	講演、動画配信、展示等
3	東京高円寺阿波おどり	演劇公演、展示等
4	東京ごみ戦争	講演、動画上映、展示等
5	3.11 自治体スクラム支援等の活動	派遣職員手記制作、展示等

2 事業実績

(1) 内田秀五郎のしごとを伝える浪曲

浪曲師である玉川太福^{だいふく}氏に依頼し、井荻村初代村長「内田秀五郎」の功績を伝える浪曲「内田秀五郎一代記」を制作し、浪曲公演を行いました。楽しく笑いを交えながら老若男女が楽しめる作品となっています。



10 月 1 日杉並区区制施行 90 周年記念式典

5 月 15 日(日)	阿佐谷地域区民センターオープニングイベント
9 月 11 日(日)	井草センターまつり
10 月 1 日(土)	杉並区区制施行 90 周年記念式典（杉並公会堂）
10 月 2 日(日)	郷土博物館分館特別展(杉並区区制施行 90 周年記念企画展 内田秀五郎のしごと)

(2) 東京高円寺阿波・おどり演劇

令和 3 年度にプロポーザル方式により委託事業者を募集し、応募社数 4 社の中から佐藤商事株式会社を選定し、当該事業者が、区民オーディションにより選出した 22 名を含む、合計 25 名の出演者による、東京高円寺阿波おどり創生期（昭和 30 年代）を中心とした史実を盛り込んだ演劇を制作しました。この演劇公演を、杉並芸術会館において 10 月に計 5 公演行い、970 名の方にご覧いただきました。

令和 4 年 7 月～	稽古開始
8～9 月	抽選申込期間（応募者 1,941 名／定員 1,075 名）
10 月 13 日(木)～16 日(日)	5 公演（杉並芸術会館 座・高円寺ホール 1）

(3) 記念曲の制作・演奏

「ふるさと・杉並」をテーマとした90周年記念曲について、日本フィルの協力のもと、オーケストラや吹奏楽の作曲を中心に活躍されている福島弘和氏に作曲を依頼し、交響詩《鼓吹（こすい）の桜》が完成しました。交響詩《鼓吹の桜》は、善福寺川の桜や高円寺の阿波おどり、阿佐ヶ谷ジャズストリートなど杉並の風景が織り込まれた親しみやすい曲となっています。



9月12日ロビーコンサート

7月4日(月)	初演コンサート：弦楽五重奏版（西荻地域区民センター）
9月7日(水)	弦楽五重奏版の区公式YouTube配信開始
9月12日(月)	ロビーコンサート：木管五重奏版（区役所本庁舎）
10月1日(土)	区制施行90周年記念式典：弦楽アンサンブル版（杉並公会堂）
	区役所電話保留音として利用開始
10月4日(火)	吹奏楽版（都立杉並高等学校吹奏楽部）の区公式YouTube配信開始

3 今後実施する事業計画

(1) 内田秀五郎浪曲公演

11月5日(土)、6日(日)	すぎなみフェスタ
11月20日(日)	杉並郷土芸能大会
12月4日(日)	こども伝統芸能わくわく体験
令和5年2月19日(日)	永福和泉地域区民センターまつり 高円寺演芸まつり
令和5年2月23日(木・祝)	杉並区社会福祉協議会70周年記念事業
令和5年3月5日(日)	西荻地域区民センターまつり

(2) 東京高円寺阿波おどり演劇

12月(予定)	公演動画区公式YouTube配信
---------	------------------

(3) 記念曲 交響詩《鼓吹の桜》

10月30日(日)	出張ロビーコンサート in コミュニティふらっと永福 日本フィル弦楽四重奏版
11月5日(土)	すぎなみフェスタ 2022 中央大学附属杉並高校吹奏楽部
11月6日(日)	すぎなみフェスタ 2022 日本フィル金管五重奏版
令和5年1月30日(月)	区役所ロビーコンサート 日本フィル弦楽四重奏版
令和5年3月10日(金)	日本フィル杉並公会堂シリーズ第6回 日本フィル管弦楽版

令和 4 年度文化芸術活動助成金について

(1) 令和 4 年度文化芸術活動助成金 (第 1 期) 実施概要

助成額	1 事業者当たり (個人・団体) 上限 40 万円 (補助率 2/3)
対象事業者	直近 3 年以内に、区内で 2 回以上の活動実績を有する区民または区内団体 25 件規模
募集期間	令和 4 年 4 月 1 日～5 月 31 日
承認件数 ／応募件数	25 件 (個人 7 件、団体 18 件) / 87 件
承認事業内訳	音楽 8 件、演劇 2 件、伝統芸能 5 件、美術 5 件、舞踊 3 件、パントマイム 1 件、美術と音楽 1 件

(2) 令和 4 年度文化芸術活動助成金追加募集 (第 2 期)

第 1 期の応募状況及び審議会の意見等を踏まえ、第 1 期と同規模 1,000 万円の財源を確保 (9 月 29 日の区議会本会議で、国の地方創生臨時交付金の活用した補正予算が議決) し、10 月 3 日から追加募集を実施している。

助成額	1 事業者当たり (個人・団体) 上限 40 万円 (補助率 2/3)
対象事業者	直近 3 年以内に、区内で 2 回以上の活動実績を有する区民または区内団体 25 件規模
募集期間	令和 4 年 10 月 3 日～11 月 4 日
審査期間	書類審査：令和 4 年 11 月中旬 審査部会：令和 4 年 12 月中旬
結果通知	令和 5 年 1 月上旬